

普及活動情勢報告（令和2年6月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

天候不良に負けずに米ナス栽培を頑張ろう！・・・西土佐米ナス部会での巡回指導・・・



5月25日、西土佐地区米ナス部会は、部会長と副会長、営農指導員、農業改良普及課、役場職員の計7名で全部会員の露地米ナスほ場を巡回し、栽培指導や現状把握、情報交換を行いました。

例年は部会員全員で現地検討会を行っていますが、新型コロナウイルスの影響もあり、このスタイルで活動を行うことになりました。

今年は、定植直後の気温の乱高下や降雨不足による乾燥などにより活着不良が見られるほ場が多く、どうしたら回復が図れるか、生産者は熱心に情報交換をしていました。農業改良普及課からは、気温データを元に今後の管理についてアドバイスをしました。

今後は雨よけ栽培ほ場でも同様に活動し、月1回以上の頻度で生産者同士の交流機会が維持されるよう努めていきます。

サトイモの土寄せ講習会

・・・黒潮町奥湊川営農組合・・・



6月5日、奥湊川営農組合の協業経営ほ場で、サトイモの土寄せ講習会を開催し、7名の参加がありました。講習会では、「土寄せ」ならびに「水」と「肥料」を施す時期と量が収量に大きな影響を与えることを説明した後、実際に土寄せをしながら説明を行いました。

組合員からは、「土寄せによって収量に差が出てくるとは知らなかった」「来年度は、面積を増やすことも考えている」等の声がありました。

農業改良普及課は、引き続きサトイモの栽培指導や営農組合組織運営等を支援していきます。

これからの早期水稻の管理について

・・・中村地区水稻穂肥講習会・・・



6月9日、四万十市中村地区のあぐりっこ研修センターとJA西部出張所で水稻の穂肥講習会を実施し、農家11名が参加しました。

農業改良普及課からは、今年度の生育概況、穂肥の適期や施肥量および、特にいもち病などの病虫害防除について、農薬メーカーからは、除草剤の使用方法などについての説明が行われました。農家からは「近隣ほ場の葉色を見て穂肥の量を決めていた」などの声があり、また、除草剤等についての質問が出され、活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課では、今後も良質米生産に向けて支援していきます。

防除は賢くラクに！（防除）

・・・三原村新規就農者・研修生合同勉強会・・・



6月11日、三原村農業構造改善センターで新規就農者と研修生の交流を兼ねて防除についての勉強会を開催し、3名が参加しました。参加者は初期防除の適期や複数薬剤の混合順、散布作業を効率的に行うための噴口の使い分けを学ぶとともに、不適切な散布作業の事例を動画を見て、各自の散布の癖を振り返りました。新規就農者間で防除の所要時間や使用噴口等の情報交換も行い、時間をかけすぎだと気づいた参加者もいました。

農業改良普及課は、新規就農後の営農が円滑に行われるよう、今後もきめ細かな指導をしていきます。

お米で地域を盛りあげたい！

・・・具同小学校5年生の田植え指導・・・



6月17日、四万十市入田の14aの水田で具同小学校5年生68名が参加し、田植えを行いました。

具同小学校では10年前より総合的な学習の一環として、お米づくりの体験に取り組んできました。水田の耕起、代かきは地元の集落営農法人（農）入田村が行い、育苗はJA高知県中村支所が協力しました。

普及指導員から田植え方法の指導を受けた生徒達は、慣れない水田に悪戦苦闘しながら14aに苗を植え付けました。

農業改良普及課では今後も、お米づくりの支援を行い、食農教育に取り組んでいきます。

次作に向けて今から対策を！

・・・キュウリ部会の現地検討会・・・



6月19日、土佐清水市生産者ほ場で種苗会社を招いたキュウリの現地検討会を開催し、農家、関係機関含め6名が参加しました。種苗会社からは新品種の耐病性や仕立て方に関する説明がありました。

農業改良普及課からは、キュウリ農家を対象に行った黄化えそ病アンケートの結果と、見えてきた課題について報告しました。農家からは、罹病株の抜き取り方や天敵放飼前後の農薬散布のタイミングなどの質問や意見が出ました。

農業改良普及課は、今後、アンケートの結果を元に防除体系を作成して農家へ周知・徹底を図り、アザミウマ防除と黄化えそ病の被害軽減に取り組んでいきます。